

## 南ア月報

(2017年4月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

### 【内政】

#### ●内閣改造発表後の動向

### 【外交】

- 劉延東中国国務院副総理の南ア訪問
- タミーム・カタール首長の南ア国賓訪問
- ベルト・クーンデルス・オランダ外務大臣の南ア訪問

### 【経済】

- 経済成長
- インフレ
- 製造業・鉱業生産高
- 景況感
- 南ア国債の信用格下げ
- 自動車産業

## 1 内政

### ●内閣改造発表後の動向

3月末日に発表されたズマ大統領による内閣改造に関し、3日及び4日に与党アフリカ民族会議（ANC）全国作業部会（NWC）が開催された。報道によれば、ズマ大統領はNWCメンバーに対し、内閣改造について事前に十分な説明や調整を行わなかったことについて謝罪。

4日、ANCと三者同盟を組む南ア最大労組連合組織COSATUは、内閣改造につき事前に相談しなかったズマ大統領に辞任を要求する旨発表。同じく三者同盟の一員である南ア共産党（SACP）もズマ大統領の辞任を求めている。

5日、マンタシェ事務局長は記者会見を開き、新任閣僚を全面的に支持、党の団結を最優先に掲げていく旨発表し、ズマ大統領の処遇についても野党の指摘や圧力に屈することはせず、あくまでANCとして協議して決定するとした。

13日、野党及び市民団体はズマ大統領の辞任を求める抗議行動をユニオンビルディングに向けて主導、約3万人が参加した。

野党の求めに応じる形で、閉会中の国会が18日に緊急招集されズマ大統領に対する不信任決議案につき審議が行われる予定であったが、発議者である野党側が憲法裁判所に対して秘密投票の実施を申請したため、その裁定を待つ必要があるとして同審議は当面延期されることとなった。ANC議員総会は同案に反対票を投じるようANC議員に呼びかけているが、ムベキ元大統領、モトランテ元大統領はANC議員らに対し、党にとられず国民を第一に考えて投票するよう呼びかけている。

## 2 外交

### ●劉延東中国国務院副総理の南ア訪問

(1) 24-27日の日程で劉延東国務院副総理が南アを訪問し、南ア・中国ハイレベルフォーラムを開催した。田学軍教育部副部長（前駐南ア大使）をはじめ10人以上の副部長が劉延東国務院副総理の南ア訪問に同行し、文化、スポーツ、科学技術、観光、保健など様々な両国間の協定に署名した。

(2) 劉副総理及び李斌国家衛生計画生育委員会主任、モツツアレディ（Dr. Aaron Motsoaledi）南ア保健大臣がアフリカ保健大臣との国際会議を主催し、中国・アフリカ間で多くの合意が結ばれた。

### ●タミーム・カタール首長の南ア国賓訪問

タミーム（His Highness Sheikh Tamim Bin Hamad Al-Thani）カタール首長が南アを国賓訪問したところ、11日付大統領府声明要旨以下のとおり。

(1) タミーム首長の南ア訪問は、2016年5月のズマ大統領によるカタール国賓訪問に続くものである。同首長の訪問の目的は、政治、経済及び社会の分野において既に存在する良好な両国関係の深化を目的とするものである。また、同首長の訪問は、両国間の政治及び経済関係の発展状況を確認し、貿易・投資、農業及び海洋経済分野における3つの短期プロジェクトを認定するものである。

(2) 中東における南アによる最も大きな投資の1つは、サソール（Sasol）がカタールで行っているガス液化油（GTL, Gas to Liquid）のジョイント・ベンチャーである。その他に、カタールに対する南アの投資には、ペトロワールド（PetroWorld）、南ア国営石油会社（PetroSA）、CKR Consulting Engineers のよるものがある。有力なビジネスマンによって構成される代表団が首長に同行した。

### ●ベルト・クーンデルス・オランダ外務大臣の南ア訪問

クーンデルス（Mr. Bert Koenders）オランダ外務大臣が南アを訪問したところ、9日付国際関係・協力省声明要旨以下のとおり。

(1) 11日、マシャバネ国際関係・協力大臣は、オランダのベルト・クーンデルス外務大臣を迎えた。2003年1月から2016年12月までの間、オランダによる計50の海外直接投資（FDI）プロジェクトが行われ、総額は約55億ランドに上り、計2828の雇用が創出された。オランダ企業が投資するセクターは、化学、ソフトウェア、IT サービス、航空宇宙、通信、ファイナンス、食品、たばこ、工業機械、電子部品等である。

(2) 対して、オランダに対する南アの海外直接投資のプロジェクトは、同じ期間において10を数える。南ア企業は、IT サービス、石炭、天然ガス、通信、民生品、工業機械、紙、印刷、梱包、プラスチック及びソフトウェア等の分野において投資を行っている。また、オランダは南アの観光業にも貢献しており、毎年何千ものオランダ人旅行者が南アを訪れる。

## 3 経済

### <経済指標>

#### ●経済成長

南ア準備銀行による景気循環指標（BCI）の発表（4月25日）に伴い、南ア大手銀行はそれぞれ2017年の経済成長の見通しを修正した。FNB（First National Bank）は、1.1%から0.7%に、Standard Bankは1.2%から1.1%に下方修正したのに対し、ABSA Bankは1%を据え置き、Nedbankは0.7%から1.1%に上方修正した。

## ●インフレ

3月の消費者物価総合指数（総合CPI）は6.1%となり、2月の6.3%から下落した。この主な要因は食糧価格の値下がり。食糧及び非アルコール飲料価格指数は2月の9.9%の上昇から8.7%にとどまったが、この原因についてエコノミストは、干ばつの影響が緩和されてきていること、ランドが比較的安定したことによるとの見方を示している。

## ●製造業・鉱業生産高

南ア統計局によると、2月の製造業生産高は、前年比3.6%減、季節調整後生産高は前月比0.4%減。一方、鉱業生産高は前年比4.6%増であり、プラチナと鉄鉱石の生産高増が寄与。

## ●景況感

ABSA Bankが4月4日発表した購買担当者指数（PMI）によると、3月のPMIは潜在的な成長力により安定して推移しているが、エコノミストは最近の政治動向による影響を懸念している。PMIは3か月連続して基準値である50を上回り、2月の52.5に対し、3月は52.2ポイントとなった。また、本指数の5つの構成要素（事業活動、サプライヤー納期、新規受注、在庫、雇用）がすべて50を上回ったのは2012年以来となった。なお、2016年のPMI平均値は49.1。

## <出来事>

### ●南ア国債の信用格下げ

内閣改造を受け、S&Pは、外貨建て国債の格付けを「BBB」から「BB+」に格下げしたが、これは2000年以来17年ぶりとなる「ジャンク級」への格下げとなるもの。格付け見直しは「negative（弱含み）」で変わらず。フィッチも「BBB」から「BB+」へ「ジャンク級」に格下げした。一方、ムーディーズは格付けの公表を見送ったが（「Baa2」）、見直しを「negative」から「negative watch（将来、格下げする含みで注視）」に修正し、5～6月に格付の見直しが行われる予定。

### ●自動車産業

デイビス貿易産業大臣は、4月5日ダーバンで開催された自動車部品業界のコンファレンスの中で、現在平均して約38%の自動車製造に係る国産化率を60%とすると言及した。これは、現行の自動車支援政策（APDP）が終了する2020年以降の政策に盛り込まれる見込み。また、同大臣は、業界からの60%の国産化率が困難であるといった意見に対して、あくまでも現地生産をしている全企業が満たす最低国産化率ではなく、平均して達成すべき数値と言及している。

## 4 警備

### ●内閣改造後の治安情勢について

ズマ大統領による内閣改造を受け、7日、プレトリア、ヨハネスブルグ、ケープタウン、ダーバンなどの都市部を中心に、市民団体SAVE SAキャンペーン主催による抗議集会・デモが行われた。プレトリアでは約4万人、ヨハネスブルグ及びその周辺地域では1万5,000人から2万人、ケープタウンでは約5万人が集結し、それぞれズマ大統領の退任、民主主義の固守を求めシュプレヒコールが鳴り止まないほどの盛り上がりを見せた。ヨハネスブルグCBD、ダーバン及びピーターマリッツバーグにおいて、ANCYL及びDAそれぞれの支援者が衝突するなど一部混乱する場面が発生（被逮捕者1名）したが、南ア国家警察による規制によ

り概ね平穏なままに終了した。

(了)